

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2006～2009
課題番号：18592415
研究課題名(和文) 心理教育を受ける統合失調症患者の服薬アドヒアランスおよび症状管理
成果指標の開発
研究課題名(英文) Development of the medication adherence and symptom management
outcome index for patients with schizophrenia following psychoeducation
研究代表者
松田 光信(MATSUDA MITSUNOBU)
神戸常盤大学・保健科学部・教授
研究者番号：90300227

研究分野：精神看護学
科研費の分科・細目：地域・老年看護学
キーワード：心理教育、精神看護、アドヒアランス、尺度開発

1. 研究計画の概要

研究の全体構想は、心理教育プログラムを受ける統合失調症患者の服薬アドヒアランスと症状管理に関する中範囲理論を構築し、これを理論基盤とした統合失調症患者に対する心理教育成果指標を開発することによって、患者に対する心理教育の成果研究へと発展させることである。今回の研究目的は、次の2点である。

(1) 心理教育プログラムを受ける統合失調症患者の服薬アドヒアランスおよび症状管理に関する中範囲理論を構築することである。

(2) 統合失調症患者に対する心理教育成果指標を開発し、その信頼性と妥当性を検討することである。

2. 研究の進捗状況

今年度は、服薬アドヒアランス尺度開発に向けて本調査を実施した。

研究実施場所は、関西、北陸、九州の精神医療施設5施設とした。

データ収集では、前年度作成した94項目からなる服薬アドヒアランス質問紙と既存の自記式および他記式質問紙を使用し、test-retestを実施した。目標サンプル数100名のところ、今年度の段階で協力の得られた対象者の特性は、88名(男性57名、女性31名)、平均年齢48.3歳(SD=13.4)、平均罹病期間18.6年、平均入院回数4.7回であった。なお、データ収集は、現在も継続実施中である。

中間解析結果では、項目分析によると天井効果とフロア効果がみられなかった項目は

わずか15項目であった。また、この15項目を因子分析したところ4因子構造が得られた。

3. 現在までの達成度

② おおむね順調に進展している。

(理由)

研究開始初年度より、研究分担者等との綿密な打ち合わせと連絡を取り合い実施しているからである。

4. 今後の研究の推進方策

来年度は、現在継続して収集しているデータを加えて再分析し、尺度の完成を目指す。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

① 松田光信、急性期統合失調症患者に対する看護介入としての心理教育プログラムの開発過程、日本看護研究学会雑誌、31(1)、91-99、2008、査読有

[学会発表](計2件)

① 河野あゆみ、松田光信、松原六郎、深沢裕子、地域で生活を送る統合失調症患者の服薬アドヒアランス基礎研究(1報)服薬信念因子構造と関連尺度の関連、日本看護研究学会、2008年8月20・21日、兵庫

- ② 松田光信、河野あゆみ、深沢裕子、松原六郎、地域で生活を送る統合失調症患者の服薬アドヒアランス基礎研究（2報）服薬信念タイプと関連尺度の関係、日本看護研究学会、2008年8月20・21日、兵庫

〔図書〕（計 2 件）

- ① 松田光信（単著）、金芳堂、看護師版〔統合失調症患者〕心理教育プログラムの基礎・実践・理論 ～看護実践研究、質的・量的研究の成果～、2008、228
- ② 山本勝則、藤井博英 編著（共著）、根拠がわかる精神看護技術／松田光信、第VI章 薬物療法と精神科リハビリテーションの援助技術、メヂカルフレンド社、2008、314～336、344～360

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

○取得状況（計 件）

〔その他〕